

日本文学講読 III

2 units (selection) 2nd-year(2nd semester)

Koji Toba · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 「近代文学の終り」(柄谷行人)が語られる中、「現代文学」が何であるのかは、文学観が問われる問題である。ここでは、「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが、とりあえず「昭和」の文学であると仮定して、「昭和文学史」を再検討してみたい。授業の中では、それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ、「文学史」の展開を考えていきたい。

Outline) プリントを教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

Keyword) *literature*

Fundamental Lecture) “日本文学研究 I”(0.2)

Relational Lecture) “日本文学演習”(0.5)

Notice) 授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

Goal) 「昭和文学史」の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

Schedule)

1. ガイダンス: 「昭和文学」と「現代文学」
2. 関東大震災と「昭和」のはじまり
3. モダニズム文学
4. プロレタリア文学
5. 転向文学と「文芸復興」
6. 戦時下の文学 (1)
7. 戦時下の文学 (2)
8. 戦後の文学 (1)
9. 戦後の文学 (2)
10. 戦後の文学 (3)
11. 高度成長期の文学 (1)
12. 高度成長期の文学 (2)
13. 高度成長期の文学 (3)
14. 1980年代の文学
15. 「昭和文学史」再考
16. レポート

Evaluation Criteria) 出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言、期末レポートにより総合的に評価する。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) 特に指定しない。教材としてプリントを配布する。

Reference) 年表の会編『近代文学年表』(双文社出版, 2002年増補4版), 『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム1・2』(新潮社, 1986-87年)など。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218939>

Contact)

⇒ Toba (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), toba@ias.tokushima-u.ac.jp MAIL (Office Hour: 授業時間の直後)